

みかん研究所 (宇和島市吉田町)

みかん研究所は、果樹試験場南予分場を再編整備することにより、本県の温州みかんをはじめとした、かんきつ類に関する栽培・育種研究機能を集約し、市場で有力な新品種や栽培技術の開発など、本県のかんきつ農業全体に「元気を興す」中核施設となることを目的に整備され、平成19年4月に開所されました。



かんきつ王国愛媛の
新たなブランド開発を担う中核施設

今後は、消費者ニーズを満たすとともに高付加価値品質を持つ品種開発のため「地域ブランドを創出できる新品種の育成」を目指します。また、し烈化する産地間競争に勝ち残り得る高品質な果実を低コストで生産していく体制構築のため、「南予地域の暖地急傾斜園に適する新しい栽培技術の確立」に取り組み、省力・低コストで高い生産力を実現する技術の開発を図ります。



本県育成の新品種「紅まどんな」



国内初の産地化に取り組んでいる
「ブラッドオレンジ」



■自家用車
松山市から約1時間30分
宇和島市から約30分
■バス利用
JR 予讃線立間駅から
依津・田之浜方面行きバスで約5分、
玉津保育所前で下車し徒歩5分

【編集後記】

「人は皆、繋がりを持つています。その輪と輪がまた大きな輪になります。その大きな輪が重なり合い、巨大な輪になり、大きな絆を形成し、この世界は成り立ちます。(中略) 私たちは、このたびの大きな経験をこの「南予」で頂きました。」これは、鬼北町分科会に参加した宮崎県参加者から頂戴した愛媛大会の報告書の一部から抜粋したものである。「鬼北よいとこへ(研修夢日記)」と名付けられたこの報告書は、A4用紙で合計20ページ、愛媛にちなんで「俳句」を交えた紀行文形式に綴つてある労作だ。

さて、愛媛大会の大会テーマは「大きな伊予の国へ広げよう地域づくりの輪」である。このような報告書を参加者が綴つていただいたということは、大会テーマに込められたメッセージが、参加者に対してきちんと伝わり、大会が有意義なものになったと考えるのは早計だろうか？

最後になったが、愛媛大会を無事開催することができたのも、関係各位の協力があつてこそ。この場をおかりして御礼と感謝を申し上げます。

(各本)

内容についてのご意見やまちづくり活動のトピックなどありましたら、お気軽に『舞たうん』編集係までお寄せください。

〒79010003

松山市三番町四丁目十番地一

愛媛県三番町ビル二階

(財)えひめ地域政策研究センター

まちづくり活動部門

TEL089(932)7750

FAX089(932)7760

発行/平成二十一年一月三十一日

(財)えひめ地域政策

研究センター

印刷/岡田印刷株式会社